

令和５年度第２回仙北市総合政策審議会議事録

- 開催日時 令和６年２月９日(金) 14:30～16:30
- 開催場所 田沢湖庁舎 ３階 第１会議室
- 出席者 会長 臼木 智昭(秋田大学教育文化学部地域文化学科)、副会長 菅原一正(仙北市商工会)、佐藤 慎(一般社団法人田沢湖・角館観光協会)、佐々木 和明(秋田おばこ農業協同組合)、市川 晋一(仙北市医療協議会)、畠山 隆憲(仙北市建設業協会連合会)、赤川 和子(仙北市赤十字奉仕団連絡協議会)、小松 龍子(仙北市ボランティア連絡協議会)
- 欠席者 細川 義彦(社会福祉法人仙北市社会福祉協議会)
- 仙北市出席者 市長 田口 知明、副市長 赤上 陽一、総務部長、大澤 裕司、企画部長 齋藤 洋、市民福祉部長兼福祉事務所長 草薨 秀典、観光文化スポーツ部長 小田野 直光、農林商工部 門脇 朋宏、建設部長 三木 啓元、教育部長 草薨 郁太郎、医療局長兼医療連携政策監 村瀬克広、政策支援アドバイザー 細川 甚孝、企画政策課長 高橋 康、企画政策課主任 渡邊 吉紀

○審議案件

- ① 令和４年度仙北市総合計画及び総合戦略の実績について(報告)
- ② 令和５年度事務事業評価の結果について(報告)
- ③ 第２次仙北市総合計画改訂版について(意見交換)
- ④ その他事項

○齋藤企画部長

ただいまから、令和５年度第２回仙北市総合政策審議会を開催いたします。本日進行を務めます企画部長の齋藤と申しますどうぞよろしくお願いいたします。

委員の方から皆様におかれましてはご多忙の中ご出席を賜り深く感謝申し上げます。本審議会につきましては市長の諮問機関として仙北市総合政策審議会条例により定められた唯一の場であります。

本日もどうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

本日の出席委員は９名中８名で条例第３条３項の規定による定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の出席委員につきましては名簿の通りとなります。説明のために出席した職員については名簿順に田口市長、赤上副市長、大澤総務部長、私企画部長の斎藤です、草薨市民福祉部長、小田野観光文化スポーツ部長、門脇農林商工部長、三木建設部長、草薨教育部長、村瀬医療局長あとは細川政策支援アドバイザーと企画政策課課長の高橋、企画政策課主任の渡邊になります。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして市長の田口よりご挨拶を申し上げます。

ここで市長挨拶、会長挨拶をいただいた。

以下議事。

○臼木会長

それではこれ以降の進行を引き継ぎ、引き続き進めてまいりたいというふうに思います。皆様のお手元に、令和5年度第2回仙北市総合政策審議会次第といった紙がお手元にあるかと思います。

この内容に従って進めてまいりたいと思います。

まず1件目ですが審議案件としまして、令和4年度、仙北市総合計画および総合戦略の実績について報告を事務局よりご説明いただきたいと思います。

お願いします。

○事務局高橋

企画政策課の高橋です。よろしくお願いいたします。資料に記載しております案件について名称等が事前の通知から一部変更となっておりますが、報告や審議の内容には相違ございませんので、あらかじめご了承ください。

初めに案件①令和4年度仙北市総合計画および総合戦略の実績についてです。

細川政策支援アドバイザーより評価の概要および結果を一括して説明していただきます。

細川アドバイザーよろしくお願いいたします。

○細川政策支援アドバイザー

仙北市政策支援アドバイザーの細川でございます。

まず皆さん方にご説明したいのはこの資料1を見ていただいてよろしいでしょうか。

仙北市の行政のマネジメントやりくりは2段階で基本的にやっております。

複数の事業が集まった政策という単位で予算をどう考えるか。

そしてもう一つ、後半またご紹介あると思いますが、１本１本の事業についてどうするかという２段階で事業政策プロジェクトの大小について議論をしております。

まず、資料Ⅰの方を見ていただきたいと思います。

仙北市は現在 55 の政策プロジェクトと言ってもいいんですけども、そこで成り立っている組織でございます。

多いですね。

実はこれは他の自治体と比べても少なくはないです。多い方です。後半、高橋課長の方から総合計画の変更についてのご議論もあるかと思うんですが、そのきっかけの一つはちょっとこれ多いんじゃないかっていうのがございます。

ただしこれで動いてございますので、今年度我々がこれについて評価した結果についてご報告申し上げたいと思います。

いっぱいありますけども、皆さんに見ていただきたいのは、一番下の 9 つの区分で方針を総合判定というところがございます。

皆様おわかりでしょうか。

実は我々やってみてわかったことを申しますと、なかなかプロジェクトごとの議論では、予算を中止または小さくすることは困難でございました。

ただし、成果は出ております。

１次評価の数は 1 ～ 9 段階ございますが、２次評価で 3 と 6 と 9 にあたるものについて予算をある程度縮小。もっと言うtoちゃんと成果に配慮しながらっていうのは、前提が付きましますけども今後、予算の大きさを小さくしていこうじゃないかっていうところでございます。

例えば、一番直近で申しますと 6 番、計画 6 と書いております。

豊かな森林資源の整備活用推進は 3 でございます。

つまりこれは、これまで以上にお金を投入するのではなくて、現状もしくはこれより小さい額で仕事を回そうじゃないかっていうところでございます。

上からいきますとですね、27 番が 2 で、3 で申しますと、水道下水道ですが 3 番でございます。これを来年度予算において予算をこれ以上つけるのではなくて現状より下げる状態でやるという政策でございます。

ただ、削ってばかりではありません。

実際は 1 番と 2 番もございます。

1 番は、コストをかけても成果を上げるべきであります。1 番でいきますと 14 番インバウンド等の交流人口の拡大と特色ある観光の一番でございます。

というふうに 1 番で申しますと 20 番、41 番の地域文化の振興と伝統文化の継承ですね。

つまりこれからお金と成果を両方取ってこうじゃないかっていうのが、今回我々の評価でできたことでございます。

なぜと申しますと、こうしないと全部の課の事業を 10%カットしようじゃないかっていう議論になるんですね。そうではないんです。

我々は達成率等、市民の意見、そして課の意見を交えて、メリハリをつけて予算配分をしていこうじゃないか。

という結論になっております。

多分来年はもうちょっと縮小し計画がちょっと少なくなると思うので、もうちょっとわかりやすくなると思うんですが現状で整理した段階でこれでございます。

また赤字になっているところ、1 次評価と 2 次評価で評価が違ったものに関して申しますと、こちらの資料で詳細がわかるようになってございます。

これについてご質問等られる方については遠慮なくご質問していただければと思いますがいかがでしょうか。

○佐藤委員

このシートを今拝見したんですけど、この一番上にあるのもいいですし 3 枚目でもいいんですが、このまちづくりの目標 KPI は、R7 の目標値が設定してあって、R4 の実績値があるんですが、R4 の目標値っていうのは、ないんですか。

例えば 1 ページ目のまちづくりの目標 KPI っていうのに No.1、肉用牛の頭数年間ってあって、R7 には 1,400 頭になりたいよねっていう目標値設定しているのはわかるんですが、それに達成するように最低でも R4 はいくつにしとかなきゃいかんよっていう目標値があって、達成してれば達成率 100%でもいいじゃんって思うんですよ。

そういうことではないんでしょうか。

○細川政策支援アドバイザー

すいません、説明不足で。この R4 は現状の数字でございます。

なぜこうするかと申しますと、実績値の目標値で距離があるということは、これだけを単純に考えれば、より予算の投入もしくは人の導入が必要ではないかという議論になりました。

つまりですねこの時、実績値はあくまでも現状の数、そして R7 が目標でございますのでその距離を取ることが大事と。

ゆえに達成率を取って、もし達成していないのであれば、より大きな行政資源の投入で達成しているのであれば現状維持、もしくは予算をそこまでかけないという選択肢もあるという検討材料という意味でこういうふうにしております。

○臼木会長

他にいかがでしょうか。ひとまず案件がいくつかございますので、ひとまずご質問は一旦閉めさせていただいて、もしちょっとっていうんであればまた後ほど伺う機会も設けたいと思いますが、一旦この案件①に関するご報告ご質問はここまでというふうにさせていただきたいと思います。

それでは続きまして案件の②ですね、令和5年度事務事業評価の結果について、各報告に進みたいというふうに思います。それでは事務局の方からご説明をお願いいたします。

○事務局高橋

こちらの案件につきましても細川アドバイザーより評価の概要および結果の報告を一括して説明していただきます。

細川アドバイザーお願いいたします。

○細川政策支援アドバイザー

では、引き続き私がご説明申し上げます。資料3でございます。

まず申し上げておきますと、田口市長になってから何でも事業を切っているような議論がありますけど、そんなことはないです。

まずそこをまずご確認いただきたいです。

こんなに事業の拡充が多い市なんかないです基本的に。もうどこの自治体も金がないんです。

その中で我々は知恵を絞ってこれやろうじゃないかって言っているっていうのをまず共有していただけると助かります。そこで、今日ご報告したいのは拡充したのはこんな感じでございます、今ちょうど頑張っているところでございます。

今日、ご議論確認していただきたいのは裏面にございます。

拡充で申しますと45番でしょうかね。

観光時間管理費の件、そしてあと裏面にございます縮小、廃止について、どんなふうになったかというのをご紹介したいと思います。

基本的に今回の皆さんにお伺いした議論をベースに今の予算編成のスタートを切っているところでございますので、少なくとも市民軽視ということはないです。

特に廃止のところでは皆さん議論を覚えていらっしゃると思いますか。

非常に何か紛糾したのを覚えておりますが、あと防災行政無線、消防団の慰労金、生きがい通所に関して、あとですね23と29に関しますとまたあと次事務局から報告がございしますが、これはちょっといろいろなことがありまして、再度検討中でございます

皆さんも新聞等でご議論あるのをご存知だと思いますが、この会では当然縮小および廃止の方向で議論したんですがその後また内部で議論しております。

皆さん方に確認していただきたいのは、2次評価の結果割合を見ていただきたいんですが、継続は70、拡充が17、縮小が8、廃止が4という状態でございます。

行政系のコンサルタントである私としてはもっと削りたかったという正直なところですが、でもそうではないわけですね。

今回の議論、そして原課、企画部、総務部との議論の結果こうなりましたという報告でございます。

もう1個資料があるはずなんですけども、青いやつですね。

これが皆さんにご議論していただいた結果です。

これに関して委員の皆さんから意見や質問をいただきたいと思います。

○市川委員

問題の敬老祝い金のことですけれど、確か縮小してないんですよね。

○細川政策支援アドバイザー

敬老祝い金については、議会で一度否決された後にこの総合政策審議会の方で再度廃止という判定をいただいたわけですが、来年度予算に関しましては、まだまだ議論が足りないということで現状維持で予算計上されているという状況であります。

ただここでいただいた議論というのは無駄ではございませんので今後また引き続き議論していきたいというふうに思っております。

○臼木会長

私も質問ではなくて、委員の皆さんと共有しておきたいんですけど、例えば一番上の方の45番について皆さんと審議をしまして、判定不能なんですけど最終結果は拡充ということ結論が出ているようなんですが、なぜか予算がマイナスになっていて、なんで拡充なのかということなんですけど、これは令和4年と令和5年の予算を比較しているんだけれども次の年に向けて拡充するっていうそういう理解でいいんでしょうかね。

○細川政策支援アドバイザー

はい、おっしゃる通りです。

○臼木会長

次の年というか、今後拡充するっていうジャンルに入ってるのが3番4番11番ということで、現時点で今日と一昨年と去年と今年、年度でいうと、去年と今の年度を比較すると予算はばらつきあるけど、今後は拡充していくよっていうことで理解でいいですよ。じゃないと、あの廃止とか縮小の方が何か増えている予算もあったりして、あれとか思ったんですけどそういう理解であれば、はいわかりますので、はい。

○細川政策支援アドバイザー

はい。ですのでこの評価は令和6年度へ向けた評価と読み替えていただけると助かります。

○臼木会長

皆様方がいかがでしょうか、こちらの大きい方のシートで我々が審議をさせていただいた皆さんに審議していただいた内容の細かいところもあります。何か気になる点とか、確認しておきたい点とかいかがでしょうか。よろしいですか。

一旦そうすれば先ほどと同じで、一旦先に進めさせていただき行きたいと思います。

また改めて何か引っかかる点とか、そういえばというところがありましたらおっしゃっていただければというふうに思います。

次の案件ですね案件の③でございます。第2次仙北市総合計画改訂版についてご審議をしていただきたいと思います。この内容につきましても事務局からご説明の方お願いいたします。

○事務局高橋

はい、それでは案件③第2次仙北市総合計画改訂版(案)について事務局よりご説明いたします。

今回の総合計画改訂版についてですが、デジタル田園都市国家構想総合戦略が閣議決定され、政府からこの方針を含めるように、総合戦略の改訂を求められたことが発端にあります。

この機会に、総合計画、総合戦略、SDGs 未来都市計画等内容に重なる部分が多く、住み分けが不明瞭だった各計画を市民はもちろんのこと、職員にとっても理解しやすい形に一本化し、より一体感のあるまちづくりの設計図とすることとしました。

計画の内容については、各部局で作成した部局経営方針シートをベースとし、課題と目標をより明確にした上で政策事業を実施し、より具体的でわかりやすい内容にするべく大幅な見直しを図ったというのが今回の改訂版総合計画策定の経緯となります。

また12月28日から1月15日の日程でパブリックコメントを実施したところ、公文書館、地域資料館設置について意見書の提出がありました。

総務課の回答を近日ホームページ上に掲載する予定です。

事務局からの説明としては以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございました。

こちらの資料はあらかじめ、各委員の皆様にはですね、私も含めて皆様に事前にお送りいただいていると思います。

なかなかあの分厚い資料ではありますが、一応お目通しいただいているという前提でこれ以降ですね、皆様から総合計画改定案についてご意見をお伺いしてまいりたいというふうに思います。

意見交換という形ですのでわからない点も含めて何か疑問に思う点、事務局の方にご質問ということでも結構ですしあるいはこういう記載についてご自身の認識と少し違うとか、いやこうあるべきじゃないかといったようなご意見ももちろん結構でございますので、ぜひ忌憚のないご意見を伺えればというふうに思っております。

なかなかどうぞと申し上げても、急にっていうのもあるかなと思いますけれども、時計回りにお伺いしていきたいと思いますが、もしどなたか他の委員の方がおっしゃったことについてそういえば私もっていうのがあれば、もちろん横から入っていただいて結構ですので、そこはフリーディスカッションのような形で進めたいと思います。

先陣を切るってということで、大変申し訳ないんですが私の隣に座ってしまったばかりにということで、ご容赦いただいて、副会長の方から何かを基に、気になったこととか質問でも結構ですのでご指摘、ご意見いただければと思います。

○菅原副会長

はい、副会長の菅原です。

事前に頂戴しておりましたいろいろな資料、またグラフ等で資料が出されておりました。住んでいる地域への愛着などという部分では、やはり昨年よりもさらに住んでいる地域の愛着がある、どちらかといえばある、あるって数字がやはり低くなっているというのが、ちょっと気になるなという気持ちがありました。

相対的にパーセンテージで言うところとちょっと下がっているのかなという印象を受けました。また意外なんですけれども、今の場所に住み続けたいという方がやはり63.9%昨年と、昨年とさほど変わらない方々がやはり地域に住んでいきたいという思いを持ってらっしゃるってというのは思いました。

また住みやすいかどうかという、ここについては、とても住み良いという部分がかなりパーセンテージが落ちているのかなという気がいたしました。

ここも下がっている部分というのが、こういった理由なのかというのは詳細にはすいませんわかりませんが、結構パーセンテージとしては下がっているなという印象でした。

あとは本当に人口減少はこのままこの推移の通りになるのかわかりませんが、ぜひともその右肩下がりを少しでも緩やかなカーブにしていきたいというそのために、その後出てくる各部局の資料が添付されておりますので、ぜひともそこでお話の方はさせていただきたいと思います。

とにかく、人口。これは正直、止められないのかなと思います。ただそれをどういうふうに関先ほど言ったように右肩下がりの軌道をゆるやかにしていくか、そこについてはもういろいろな角度から行政の方には努めていただきたいなという思いを持っております。

私からは以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。

ひとまずご質問というような形ではなくてご意見と、それからざっと見ていただいて、こういう点が目に留まったというようなことで承っておきたいと思っています。

続いて佐々木さんお願いできますでしょうか。

○佐々木委員

実は私の前の委員の方が交代ということで、今回初めての会合ということで、資料の報告かなり時間をかけて2回も3回目読んだりして、この場にいるわけですが、農業関係につきましては引き続きやる気のある農業者への支援、それから新規の就農者への浸透をよろしく引き続きお願いしたいというふうに思います。

それからちょっと先般私が委員になったということで聞きつけた市民の方おりまして、どうということかということですが、その委員会のときにぜひ話をしてくれっていうことを言われました。

その内容ですが、公文書館、地域資料館設置に関する要望ということで、今仙北市には公文書館は存在しませんけども、昭和44年、田沢湖町の郷土資料館が開館されました、平成29年に閉館したということです。

閉館後は田沢交流センター等に分散して展示しておりますけども、まだ未整備部分も多くあるということでこのため公文書館の機能のある施設をまず要望するということでした。歴史資料として重要な公文書等の保存や理由について国や自治体は責任を持って取り組まなければならないとされているということの中で、市から市民の知識が共有され、後世に正確に検証する施設となり仙北市の発展の土台になることが期待されるということで、どうか改訂版の中にこの公文書館の設置について追加することを強く要望するということをお話してくれと言われてきました。

こういう状況の中で財政が非常に厳しいわけですので、施設をまず新しく建てるということとはなかなか厳しいことだと思いますけども、今ある施設を利用しまして、ぜひ今話した内容のものの実現を検討いただくことをよろしくお願いしたいというふうに思います。以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございました。

公文書館を建てるというか、すいません私ここに住んでないので、詳しくわからないんですがもしかしてご存知ない方もいらっしゃるかもしれませんが、今の公文書館の話の経緯というのはどういうことか簡単に結構なんすけどちょっと教えていただけますか。

○大澤総務部長

総務部長の大澤でございます。よろしくお願いします。

公文書館の必要性につきましては過去いろいろな経緯で議論されてきております。庁内のワーキンググループですとか検討会をこれまで数回開催し検討してきました。最終的にそのハード面の施設の整備は難しいだろうということでした、バーチャル公文書館のような市民が必要な文書や資料を検索できるようなシステムですとか、デジタル化による公文書機能というのはこれから必要という結論に至っておりますので、そこについてこれから検討していきたいというふうに思っております。一方で歴史的な資料等につきましてはこれは歴史的文化的資産財産として各地区に分散して今展示しておりますけれども、将来的に令和8年度まで予定しております学校適正配置の関係で、その各小中学校の校舎ですね、校舎の方が空いてくるということもありますので、それも含め今後増えると予想される美術作品等も含めまして、再編が行われるものと一緒になって考えていきたいということで今検討しているところでございます。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございました。ひとまずまたご意見を伺ってまいりたいと思います。

畠山さんよろしくお願いします。

○畠山委員

資料が送られてきてまして一通り目を通してきたんですけれども、施策であったり、達成水準であったり目標の方は各部局とも非常に良い目標を立てているなとは思ってはいたんですが、初めの方の財政力地方財政の方を見ていると、財政力が低いところなんですけれども人口も減ってきて、財政力もないっていうところで、本当にこの政策の方を行っていけるのかどうかっていうところがちょっと不安で、その辺は皆さんのいろんな努力だったり、方針をいろいろ変えていくっていうことで、財源を確保できていくのかなとは思いますが、多少なりともその辺が本当にこれ全部やっていけるのかなというのが一抹の不安でありました。

○臼木会長

なかなかその財政の見通しっていうのは必要なことだと思うんですけれども、今おっしゃったところはこのまま仮に進んだとして、ここに書いてあるようなことがちゃんと実現で

きるのかと、逆にこれが下振れしたときには、また何か諦めていかなきゃいけないんじゃないかとか、そういうちょっと市民目線で言うとそういうご心配があるというふうに私は畠山委員の話から感じ取りました。可能な範囲で結構ですけれども今のコメントに関して事務局の方で何かお話しいただけるところありますか。

○齋藤企画部長

心配なされているその通りでございます。

正直言いまして先週、新聞の方に大仙市の財政収支の来年度予算の記事が載りまして、財政収支は仙北市の人口約３倍であります、金額的年間の予算の総額からしますと仙北市は大仙市の半分くらいです。やっぱり仙北市は予算規模が非常に人口に大きいと。その規模が大きいということで、言い方が不適切かもしれませんが身の丈に合った予算規模になってないというのが今現状なんです。

ですから、今後やっぱりその厳しい財政状況というかそういった中で事業をやっぱり見直していくということが必須になります。

まだ何とかこれだけの事業をやれておりますし実際先ほどの説明で縮小廃止というのも少ないわけであります。

ただ、いずれ全部が全部できなくなるという状況にはなります。

おかげさまで今ふるさと納税も順調にいただいておりますが、ただそれも使える財源というのは限られますので、そのふるさと納税の活用ですとかあとは財政調整基金といいまして貯金ですね。それをできるだけ維持できるような財政運営を心がけていきたいと思っておりますので、市民の方に不安を与えないような財政運営をしていきたいというふうに思います。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。今のことに直接は関連しませんけど副会長の方からちょっと補足でお伺いしたいとかご意見を述べたいということでどうぞ。

○菅原副会長

先ほどの話では、部局別経営方針シートの方に全く触れておりませんでしたのでちょっとそちらの方も伺いしたいと思いますけれどもよろしいですか。

企画部ですね。44 ページですけれども、課題を解決するための手法および事業ですけれども、市町村にはない観光アクティビティ、リクルートトリート、これを持って移住定住対策をしていきたいということが書かれておりますけれども、これにプラスして働く場所がなければ、なかなか定住移住というのは難しいのかなと思っております。

ここはちょうど農林商工部の方の企業誘致であるとかいろんな部分も関わってくると思いますけれども、ここはやはり観光やアクティビティだけじゃなくて、働く場所がなければなかなか定住移住は難しいと私は思います。

そして企画部の 48 ページですけれども、同じく課題を解決するための手法および事業ですけれども、そちらの③ですね戊辰戦争時の角館の町並みを守った云々とありますけれども、ここには大村市、そして今、茨城県そして秋田県の秋田市となっておりますけれども、その他にも友好都市として旧志度町と現さぬき市ですね、こちらの方も友好都市となっております。

ぜひとも今後ですね、平賀源内の縁があって多分こういった友好が結ばれたと思います。そういったものも含めてですね、今に資料として載っているところだけではなくて、そういった、さぬき市との友好も推進していただければなと思っております。

次にですね、観光文化スポーツ部、60 ページですけれども、こちらの中段にある同じく課題を解決するための手法および事業ですけれども、こちらの①ですね。

駅から中心市街地、中心市街地から武家屋敷へという動線を作っていく。これ非常に大事だと思います。

ただ、これはおそらく想定としては、駅から降りてきた歩行者をイメージして作られている事業だと思います。

ただどうしても今の角館の街の中、田沢湖はよくわかりませんが、特に角館ですと街の中が非常に虫食い状態になっています。空き家も多くなっている。または空き地が多くなっている。

こういったところが個人的に思うのは、車が通りづらいから、時間規制をかけて一方通行しているところもありますけれども、そういった規制が少し観光に来た車で往来をしている観光客とかにとっては不便なのかなと思っております。

こういうのはやはりその地域の皆さんの理解も得られなければなかなか難しい話だと思いますけれども、歩行者だけでなく車で来る方がほとんどなので、車で来た方もその町を回遊しやすいような街並みに、将来的に大きな目を見ていくということは必要なのかなと思っております。

そして農林商工部の 68 ページですね。

こちらの同じく課題を解決するための手法ですが、下段の商店街空き店舗の増加と後継者不足および地域経済の低迷こちらの課題を解決するための①ですね。

商店街等賑わい実施支援事業補助金となっております。これ非常にいいことだと思います。いろんなことをチャレンジして、街を活性化するためのイベントっていうのはどんどんやっていただきたいと思っております。

ただ、こちらに実施年度の翌年度は対象外というふうな文言が書かれております。

これはなぜなのかなと思います。

良いイベントいい事業であればそれは翌年も継続されてもいいのかなと思っております。ここはなぜ、翌年度は対象外となるのかを教えていただければ。そして裏面に行きますけれども、下段のですね、市内企業生産性向上に向けた云々とありますここで雇用の創出ということも書かれております。

2023年度は企業立地事務所に職員2名を派遣しているということでもありますけれども、ぜひとも先ほど言ったようにやはり働く場所がなければ、なかなか定住移住も難しいという部分もあると思います。

そして継続的に雇用が確保されるような企業をぜひとも誘致をしていただきたいと思いますと思っておりますけれども、まずは1年間、約1年間、2名を派遣した上で、こういった手応えがあったのかなというのもちよっと伺いたいと思っております。

そして②ですけれども、新規学卒就職者に対する応援金を支給するとともに、市内未就職者の資格取得の経費を支援し、労働力確保に努める。

応援金を支給するというのはわかるんですけども、市内就職者に対して支給と書くと、何のための経費を支援するっていうのは、多分それを資格を取得していただいて仙北市で、それを生かして働いてもらうということがあればいいんでしょうけれども、これはそういったことを前提にされているのか、未就職者であってもそれは支援をするということなのか、どこがこういったことなのかっていうのがちょっと疑問でした。

この文言からちょっとわかりませんでした。

そしてですね、教育委員会ですけれども、77ページ下段の方に①ふるさとを愛し云々とあります。

キャリア教育としての学習支援事業として、地域を生かした資源の体験活動というのは非常にいいことなんです。

子供たちにそういったものを知っていただく、そしてBの方でもキャリアマイスターによる応援、いろんな素晴らしい事業が、企業がこの仙北市にはあると思います。

そういったものを子供のうちから子供たちに対して、こういった企業が、またこうした継続していく企業がこの仙北市にはあるんだと、ぜひともこのヤマメサクラマスプロジェクトのようにですね、仮に進学やら何やらで出ていったとしても、またこの仙北市に戻ってきていろいろな企業に就職したいというふうなそういった形を作っていただきたいなと思っております。

最後に商工会が母体ですので、ぜひともプレミアム商品券。こちら交付金だよりというところもあると思いますけれども、何かそういった起爆剤になるようなものがもし、検討していただけるのであれば、検討していただければなと思います。

長々とすみませんでした。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございました。

たくさんご意見はいただいたんですが、あのご質問という形で68ページと69ページの辺り、もしお答えいただけるのであれば、お時間必要であれば後でということでも結構ですが、大丈夫ですか。お願いします。

○門脇農林商工部長

農林商工部長の門脇と申します。

ご質問の商店街等賑わい支援事業補助金についてですが、この事業については呼び水というんでしょうか、きっかけ作りというふうなことで考えている事業でございます。

もちろん順調に軌道に乗った場合には、商店街さん等の方で実施していただければというふうなことから、翌年度対象外というふうに書かせていただいているところでございます。

次の企業立地事務所の職員派遣等については、今年度東京事務所の方に1名県の方に1名派遣されておりまして、次年度についても東京事務所の方に1名というふうな予定でございます。

彼らは地元の企業訪問等を通じまして、今年度についてもサテライトオフィス2社が誘致企業として認定されましたけれども、この東京事務所に行っている職員の働きかけ等についても、効果があったものというふうに考えてございます。

あと、もう一点の就学者市内未就職者の資格取得補助金につきましては、就職できないでいる方々に資格取得の支援というふうに考えてございました。

以上でございます。

○臼木会長

ありがとうございました。ひとまず先にご意見を承る方に戻らせていただきたいと思います。

またもう一つ二つあるっていうことでちょっと思いついたっていう方はまた改めてお時間とりますので、続いて小松さんいかがでしょうか。

○小松委員

はい。13 ページの幸福度についてなんですけど、ちょっと意外だったなと正直思って、私の周りの人たちとこんなに違うのかなと思いながら、結構高いんだなってちょっとびっくりしました。

結果、本当に満足しているんだらうなってちょっと見ながらつくづく感じたところです。あと、48 ページの幸福度についてなんですけど、E 欄、結婚支援センターに入会した人のって書いていているんですけど、仙北市では確か、1 万円でしたっけ。入会のお金ってやっているんですけど、仙北市内にこの結婚支援センターと連携して講習を受けていますよね。

そういう人たちと市役所の人たちとかをここの課の人たちと繋がって何か相談とか何かしているのかなとちょっと思ったりもしました。

ただ、市役所の要請を受けて講習を受けて、結婚何とかっていう名目もらって活動をしたんですけど、その後は全然なかったんで、なんていうかな、市役所の人と一般住民の人たちのいろいろ活動しているところと、あまり繋がっていないのかなといろいろ見ながら思ったりもしました。

簡単ですが、以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。今の 48 ページのご質問ということではないのかもしれませんが、疑問みたいな形で今お話ありましたけど、その部分でお答えいただける方お願いします。

○齋藤企画部長

今小松さんのご意見の通り結婚支援センターに加入する際には1万円の入会金を市の方で補助しております。

その地元にいる結婚アドバイザーのような方々と、この市の当局があまり連携していないというのは私達の反省点だと思いますので、今後そういったことのないように皆さんのお力を借りながらやっていきたいと思います。

ただしやっぱり若い人っていうのはなかなか昔と違って、恥ずかしがるところもあるのでちょっと難しいところはありますけどもやっぱりそういったことがないと、そういったものにも繋がっていかないと思いますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

ご意見ありがとうございました。

○小松委員

最初の頃は市の職員、担当の職員さんと一緒に、あと企業を回ったり社長さんとお話したりして何かイベントをやろうとかっていう話をしたり、具体的にやったんですよ。

でも、1回やった後、あと全然何もないので、せっかくそういう人たちが仙北市の中にいるのだから、そこと繋げて何か結婚支援する形、何かイベントでも何でもいいんですけど、そういうことができると思うので、せっかくこう受けて、登録している人もいますから、繋がりを断つんではなくて、一緒に動けたらと思います。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。ご意見ということでまずは一旦承らせていただきまして、また続けて参りたいと思いますが、赤川さんいかがでしょうか。

○赤川委員

私は小学校の地域学校協働活動推進員やっておりまして、今月号の広報に載っております。豆から豆腐を作るのに協力いたしました。

その中で、小学校の子供たちで茹でるところを私達がやって、枝豆を食べさせ、次に枯れてから豆腐を作るっていうところだったんですけども、枝豆を茹でて食べるっていうことも知らない子供がいたんですね。

とってすぐ食べようとして、これ茹でてだよって言えば、家ではこのまますぐ食べるっていうのよ。

それでお母さんとかおばあちゃんとか茹でてくれないのと、放課後児童クラブに行っているから、お母さんが迎えに来て帰れば枝豆ができていていう感じなんですよね。そういう意味で、子供たちっていうのは農家の子供でも、そういう野菜に触れることが少ないんだなと思って。

今すごく桜並木周辺に若い人たちの住宅がすごく増えております。

そうすると、畑なんてもないし、ましてやこの野菜が高騰になってきているので、もしできれば親子家庭菜園っていうのをやって、それは空き地がいっぱいありますので、そういうところを無料で借りていただいて、そしてその地域の高齢者の人たちが全部恩恵を受ける場合でなくて、そういう若い家庭の人たちにボランティアで畑、野菜を植えることを教えたり、それから農協さんに頼んで、苗が余っているからいらないかとかって。

やっぱりそういうふうなのを行政がやるっていうのは大変だと思うので、農協さんだとか地域の農家の人たちにお願ひして、鍬なんかを買ってなければ絶対やる人はいないと思いますけれども、余っている鍬や苗をもらったりして、やっぱそういうふうなちょっと手間はかかるかもしれないけれども、お金をかけないで、そしてやっぱりやったときに、周りのお年寄りという地域の方々が教えてくれるという、そういうふうなところに持っていけば、若い人たちも、日曜日は畑に行こうかとかっていうようにして楽しいと思えば増えていく可能性もあるので、今回の3年生の豆腐作りを見て、農家の子供でもわからない子供もいるんだっていうのを感じまして、そういうふうに思いました。

そしてそれも食育も兼ねられますので、行政と一般の地域の方々と関わって人件費とか材料費はかけないようにして、やる気であればできると思いますので、そういうふうにしていけばいいなと思っております。

それから田沢湖はわかんないんですけど、角館は児童公園も何もないんですね。

それで、角館庁舎の跡地のところに火除けで空き地がありましたので、私もそこで育ちました。

あそこのところ緑地にして公園というよりも、芝生を植えてベンチを置いて、あの子供さん連れの観光客も多いので、休むところが何もないっていうので、やっぱりちょっと地べたに座って芝生に座って休めるところがあれば、戻りもあるしその管理はやっぱり老人クラブとか婦人会とか地域の人たちが1週間に1回管理するとかっていうふうにして、それもやれば全部管理費がかかるからやられないっていうことじゃなくて、やっぱり行政だけでこれからはできないっていうことを、やっぱり市民の方々にもわからせないと絶対に、市長さんとか行政の方々が大変なのかお金なくて大変なんだって言ってもやっぱり自分たちでやってみないとわからないと思うんですね。

ということともう一つは桜の花見のときですけれども、私毎日散歩して歩いていて落合公園の方の桜の枝が折れたんだと思いますけれども、落ちっぱなしで花見が始まってからも全然よせられていなかったんです。

それで私が2、3日行ったけれどもよせる気配がなかったので、いつも来る方も一緒に横の方によせてきて、このことを市議会議員さんに話したけれども、それは今忙しくて対応するのが無理だろうという話をされたけど、花見が終わってからだと意味がないのにと思いました。

やはりそういうふうな状況もありますので、花見始まる前には横町から古城橋まではすごくよく整備しますけれども、落合の方、あそこの真ん中すごくグリーンの芝生になりますんで、写真の通り、若い人たちがすごく多いんですよ。

だからそういうふうに行っているのに、角館っていう真っ赤なあの看板は立っているんですけども、枝がものすごく出てあれだったので、やっぱりこの次の花見のときはそういうところもちょっと気をつけて整備していただければなと思います。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございました。観光シーズン、今までやっぱりコロナでブランクがありましたので、別にかばう立場でも何でもないんですけど、やっぱりブランクがあって、元に戻るのにどこの観光地も、ああそういえばっていうことの連続だったようです。

秋田の竿燈にしてもですね、実際にお客さん来る見込みもなかなか立たなかったんじゃないかと思います。前は果たして戻ってくるのか、同じスケールなのかもっと来るのか、日本の方なのか外国の方なのか、なかなかちょっと予想がつかなくてちょっとずついったところかなと思います。ただ今のご意見は、観光地としていろいろ事前に考えておかなきゃいけないことでしょうし、だんだんそのポストコロナというポストがなくなって、元に戻りつつあると言えれば戻りつつありますので、そういったご意見もぜひ事務局の皆様の方で受け止めていただいて少しずつでも改善する方向に向かっていただければなというふうに思います。

また続けさせていただきまして、市川さんいかがでしょうか。

○市川委員

各調査の概要が記載されているページの、人口の現状と将来で、最後の2行の言い回しがわからない。わかりにくい。

○事務局

わかりやすい言い回しに修正いたします。

○市川委員

次に観光です。

25 ページから観光についてですけど検索では武家屋敷通りが最も多いってこれはわかりますけれど、あと乳頭温泉とか玉川温泉などの温泉関連が多いということが書いてありますよね。

観光文化スポーツ部の 57 ページから 60 ページですけど、この中に私の見間違いかもしれないけれど、温泉のおの字もない。

滞在型、宿泊型の観光地を目指さないとお金が落ちてこないから、そうすると、やはり宿泊施設の多い田沢湖の温泉が非常に重要だと思うんですけど、これ私の読み違いになるかもしれないけれど、温泉のおの字も出てこない。

それが、どうかと私は思うんです。

それから今、入湯税というのを取っていますよね。

だから、この場で話すべき事ではないかもしれないけれど、やっぱり入湯税というのは、やっぱり温泉地の振興のために使われる税金なので、市長も市長になられて、あちこちの温泉に行かれて、勉強されたと思いますけれど、やはり温泉って仙北市にとっては大事な観光資源なので、滞在型の外国人の人も来てくれたら泊まってもらわないといけないですもんね。

だからそのことにもう少し力を入れるということと、それからあとやっぱり小さな温泉もありますし民宿もありますので外国人が泊まる場合は、今、台湾の人が多いですけれど、タイの人も増えてきたので英語、中国語、韓国語も表示ありますけれど、またこれからタイも見越していかなきゃいけなかったら、小さな温泉、大きな大手だったら自分とこでできるかもしれないですけど、小さな民宿とかだったら掲示板設置への援助、小さな温泉宿もやっぱり援助してあげるべきではないかと思います。

それから皆さんご存知ないかもしれませんが、やっぱ乳頭温泉地区は、皆さんすごい努力していますよね。温泉に対して。

一方、高原の温泉はやっぱり中央の資本が入ってきているので、やはり商売のやり方が違ってきます。私、あまり商売のことは詳しくありませんけれど。

ですから、乳頭温泉頑張っているんですが、乳頭温泉は、国民温泉保養地という資格も取りました。

協力する医療機関が必要ということだったので私がその専門医になっていました。

前の市長のときからやっています。

でもこれはそんなに日本ではたくさんあるわけではないんです。だからもっとやっぱり宣伝すべきではないかと思います。

また手前味噌ですけど、温泉浴マイスターという制度を私作って、3月1日にも角館庁舎で開催する予定ですけど、これ温泉に楽しく入ってもらう、健康に入ってもらうためにどういうふうにしたらいいかということを、温泉の効能だとか入り方というのをレクチャーする会なんですけれど、このような温泉に対する啓発活動というのは、日本でそれほどやっていなくて、秋田県では仙北市だけですので、コストもあんまりかかってないんです。私講師ですので無料ですから、ただですので、コストもほとんどかかってなくてですね、ぜひそのことも市長もし他所の県に行かれたりするとうち是这样やっていますということをお願いしたいと思います。

また今玉川温泉では、玉川温泉に療養する場合は交通費も、それから滞在費も税金の控除になることを今申請しています。

前の社長さんと、少し知り合いだったので、それを少しお手伝いをしているんですけど、そのためには医者診断書が必要なんです。

だからそういうのも、私温泉の療法医の資格を取っていますので、そういう診断書も書いて、温泉の入り方も指導することができますので、ぜひ温泉に力を入れていただいて、この計画に温泉という文言が一つも入っていないので、力を入れていただきたいと思います。また私医者ですので、市民福祉部のところで49ページです。

それで皆さんテレビとか新聞報道でされています医療マースということですけど、横文字で申し訳ないんですけど、マースというのは実は仙北市でやっているんです。

それをよぶ乗るタクシーと言うんですが、コンピューターで効率的にお客さんがいるところを回すという、交通のサービスということです。

それで医療マースというのは、交通弱者でなかなか診療所など医療機関を受けられない人はこちらから診察するということで、従来の訪問診療とは違った形なんです。

これも実は医療マースというのは仙北市だけじゃなくて先進的なところでは実はもうみんなやっていて、ネットで調べたら10いくつみんなやっているんですよ。

だけど、このたび仙北市が導入したのは、医療機器をエコーだとか心電図だとか医療機器を積んでいて、実は日本一なんです。

何で日本一になったかという、お金かかっているからですね。お金をかけたからです。他のところでは多分なかなかやっぱりペイできないです。

オンライン診療って儲からないんです。儲からない。実は儲からないです。

だから資本を導入しても回収できないんですけど、仙北市はデジタル田園都市国家構想で、補助金をいただいてそれを導入したからある程度元金なしで運行できるので、このことも今始まったばかりで、私も偉そうなことは言えないんですけど、実はこれも先進的なことで、これも別に診療所のためにやっているわけではなくて、市民のために行っている事業です。

だからこのこともやっぱり少しアピールしていただければと思います。

また私医者なので、医療の方の最後の方に行きます。

医療局のお話です。

医療局の中で田沢湖病院と角館病院って二つ大事な病院です。大事な病院があって、いろいろ書いてありますけれど、田沢湖病院も以前、初代市長のときに委員会を作って、今後どうするかって医療改革をどうするかということがあったんですけど、そのときに、私も入ったんですけどやっぱり診療所にすべきという、結果をまとめて当時の市長に申したんですけど、結局やはり病院を継続するということになったんです。確かに時期が悪かった。新しく病院建てたばかりだったから、だから時期も悪かった。

ですけど、あれから人口がどんどん減っています。患者さんも減っていて、失礼ですけど、外来の患者さんは100人余りです。

これは私の診療所でも、ときには100人超えたりすることがあります。

先生方も少ないですけど、ただ入院が40人ぐらいですので、診療所にすると、ベッドは19です。

ですからそこは悩ましいところですけど、これから角館病院のも頑張ってくれていろいろ新しくお医者さんも増える予定ですので期待したいところですけど、以前角館病院も医療経営の委員会もありました。

そしていろいろ答申したんですけど、実はあんまり変わってない。

変わってないので、このこともやっぱり改めて、両病院の検討をし、経営を外から入ってもらって評価としていただいておりますけれど、またそのことをしないでも、市民を交えて検討する必要があるのではないかと思います。

さて、85ページです。

この中で主要 KPI と書いてありますけれど、医師数とか奨学金の対応者とか、そういう中で書いてあるんですけど、医療事務作業補助者。

これ医療クランクっていうと思うんですけど、私は医師数も大事だけれど、次に看護師さんが大事ではないかと思うんですが、なかなか看護師さんを確保するということもだんだん難しくなっていますので、はっきり言ってコメディカルでみんな大事な仕事でリハビリとかも大事ですけど、今やっぱり看護師不足が、やっぱり病院ではどうなっているかわからないんですけど、深刻だと思えますよ。

そして医者が十二分に働けるにはコメディカルがいないと十分に働けないですよ。

でなければ、満足度は上がらないです。

医者もそんなに愛想を振りまいて 24 時間働けるわけではないです。やっぱり今も医療はチームですので、やっぱり看護師さんとかリハビリの人とかそれぞれクランクとか。クランクってあの医者の隣にいて、いろんなパソコンの入力だとか手伝ってくれる人です。やっぱりそういうことで、何でナースを入れないでクランクを入れたのかと私は思います。

それからあとベッドの稼働率です。両病院の。

コロナで大変だったとももちろん思いますし、逆にコロナの患者さんが増えて、かといって無制限にコロナの患者を受け入れるわけにはいかなかったから大変でしたけれど、コロナの患者も受け入れてくれるんです。

これはね、公的な病院でなければ受け入れてくれないんですよ。

例えば民間の病院でどんどんコロナの患者を受け入れてくれるかと言ったらやっぱり受けられなくて、日本全国で、まずやっぱり公的な病院が。

秋田だったら市立病院がコロナの患者さんを最初に入れてくれたので、角館病院も頑張って受け入れてくれて、人数も結構ベッドも 17 床と増やしてくださって、すごい頑張っているんですけど、それにしてもこれらはともかく、これからやっぱり稼働率が大事ではないかと思います。

以上です。

○臼木会長

ありがとうございます。

ご指摘ご意見等々ございましたけれども、

もう病院の問題は、なかなか即答できない部分も多々あると思うんですがどうでしょうか。

○村瀬医療局長

医療局の方担当しております医療局の村瀬と申します。

市川先生大変貴重なご意見ありがとうございました。

まず一点、医療クラークについて先生のご説明の通りでございまして、医師のそばにつきまして、あくまでも医師の先生方の指示のもとに診療録だったり処方箋の方の入力を行うというふうな位置づけの職員になってございまして、この部分につきましては市川先生お話の通り、先生方を初め医療資金が大変厳しい中で、先生方の働き方改革の中で、現在注視されているところでございまして、それにつきましては当然、市川先生のお話の通り、看護師、あとはコメディカル等々のスタッフの充実っていうのも当然図らなければならぬというのは肝に銘じているところであります。

繰り返しの説明になりますけれども、現在、角館総合病院で6名の医療クラークいらっしゃいますけれども、全ての外来の先生方に付けるというふうな状況では到底ございません。

それにつきましては議論をいたしまして、限られた形で人員配置をしているところでございますが、医療クラークの重要性というのが今現在求められております。

そういった部分で全ての医療スタッフの人員配置というのは拡充というのは当然重要視されますけれども、現在配置しております医療クラークの方を増員して、外来の方でいくらかでも先生方の負担を減らして、午後は手術棟に回しましょうというような形の発想でございます。

先生のご指摘の通り医療のスタッフの皆さん方は本当に貴重でございますので、そういった形で記載しているわけではございませんので直接ご理解いただければと思います。

よろしくお願いします。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。

ここ議会とかではないのでどうなってんだって話ではなくて、医療機関でお仕事されている現場の感覚から見てこういう点がぜひこの計画の中に盛り込んでいただくとか、見えない部分をもう少し意識してほしいというようなご指摘だということでは捉えていただきたいと思います。

具体的なレベルの事業に関してはそれぞれご事情はあるんだろうと思います。

もう一点、温泉のお話がありましたけれども、もしお答えできる範囲で。

○小田野観光文化スポーツ部長

観光文化スポーツ部の小田野です。

温泉に関してですけれども今回の総合計画の書き方としては、仙北市にはいろんな豊富なまさに観光資源がたくさんあるということで、温泉っていうところが出なかったっていうのが正直なところなんですけれども、ただ 56 ページの一番上の部の方針というところを見ていただければと思うんですけれども、基本的には豊富な地域資源を活用した観光産業の振興というのが、メインになっています。

そういったことでその豊富な観光資源がなんだ、というときに、実は昨年 9 月に第 3 次の観光振興計画というのを作りましてその中に観光資源として農山村の自然の営みとかそれから豊富な自然ですね、豊かな自然、それから温泉それから角館を中心とした歴史伝統そういった括りでそういったところを重点的にやっていくって形にしております。

具体的な事業の中で当然観光の宣伝とかとなれば、当然音声も出てきますし、また今後の大きな柱としては、58 ページのですね、①の A の事業なんですけれども、地域一体となった観光地観光産業の再生、高付加価値事業ってのがありまして、これは今田沢湖地区を中心に乳頭温泉の再生だったり高原の温泉地のリニューアル、そういった事業を民間の業者の方にいろいろやっていただいているというようになっておりまして、当然我々も温泉が非常に重要な資源と位置づけておりますので、そういった視点でこれからもいろんな事業を展開していきたいと思っております。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。

ひとまず先に進ませていただきまして、また何かありましたら、最後のあたりでもう一度皆様方からというふうにしたいと思います。

続いて佐藤さんお願いしたいと思います。

○佐藤委員

ちょっと確認というか、この政策審議委員に任命されまして、今日の自分の仕事というか我々の仕事は今のテーマに関して、第 2 次総合計画に関しては、要はこういう施策だったり仕組みを実行した場合に、幸福度 No.1 の街になりますか。どうでしょうか。ということだと思って来ました。

各方針シートのいろいろ細かいところの暮らしに関わるようなそういう細かいところの、これはこうだとか、こうしてほしいとか、それを言う前に多分、何かこの全体的な仕組みがどうなっているのかっていう理解と確認からしていかないと、何か全然先進まないんじゃないかなと自分は思っています。

いただいた資料が大きく二つにわかれているなと思っていて、一つが、それこそこの経営計画という計画というか、この仕組みがちゃんとそうなる仕組みで作り込まれているかというのが一つで。

そうだとすれば、この各方針シートだっけかに書かれている具体的な施策が整合性がとれているかとか、どうかだと思って見てきました。

なので、まずこの仕組みの整合性というか仕組みがちゃんとしているのかというところを自分なりに見てきましてですね、4ページのこの総合計画とはという説明を読んでまず理解はしました。

ただ6ページの方になったときに、今は2024年の2月でこの4月から一番下のところですよ。

今見たような、6ページの24年の4月から26年の3月までのこの3年っていうのが、4ページに戻ったときの緑の実施計画の具体的な取り組み実施計画は3年間の計画とCというところだと思います。

それで各方針シートの未来の25年度末までの目標というのも書いているので、そこは理解できるんですけど、また4ページに戻ったときの基本構想っていうのを10年間で1回作るっていうことになってあるんですよ。

基本構想は25年でおしまい、でも26年までの具体的な各部局のいろんな施策の計画を立てるっていうのが矛盾しないのかなと思ったんですが、そこをちょっと教えてほしいのと、基本的に自分の考えでは10年作ったらその10年の計画はいずれでずっとやりましようじゃなくて毎年毎年その先の10年をずっとブラッシュアップして、世の中変わっていくんだから10年もたてば全然変わっていくんだからその都度合わせて変えていくべきだと自分は思っています。

以上です。

○臼木会長

お答えいただけますか。

○齋藤企画部長

ご意見よくわかりました。基本構想というのが平成 28 年から令和 7 年度末までなので 2026 年の 3 月までの 10 年間です。前期計画ってというのが 5 年間ありました。

今はこの 4 ページで見るところの真ん中の基本計画っていうところを今ご覧になっていたいています。

ここはもう後期で 5 年作っておりましたけれども、今佐藤委員のおっしゃる通り 5 年ってのは長いスパンで 5 年前に立てた計画が全く今のところ機能していないということで、残りの 2 年間でこういう形に変えたというのが、今回の計画の趣旨でございますので先ほど佐藤委員の方から、ちょっと矛盾があるのではないかということは、令和 7 年度までの 10 年間、令和 7 年度末ってというのは令和 2026 年の 3 月までなので、それは矛盾していないかなというふうに思います。

以上です。

○佐藤委員

はい。あとすいませんこれ、余計なことかもしれないけど、市長も変わったし世の中も変わっているので、今から基本構想 10 年作っちゃった方がいいんじゃないのって思うんですけどそこはどうなのでしょう。

○田口市長

大変おっしゃることよくわかります。ただその総合計画 10 年のこの基本構想ってのは前市長が小さな国際文化都市を目指すというので作っているものがあって、それは当然その議会で承認されたことになりますので、私としては市長変わった段階で全面リニューアルするべきだとは思ったんですが、私自身も全くどういうふうな作り込みをしたらいいのかって状況がわからない中でこの 2 年間、市長やらせていただいて、ようやく私の幸福度全国 No.1 を目指す総合計画に今着手したという形なので、佐藤委員おっしゃることはその通りだと思いますけれども、前総合計画を引き継いでのどっかのタイミングでまず切り替えていくって中でこの 2 年間の際というか若干微妙な 2 年な感じが、私自身も私正直思っています。

○佐藤委員

はい、わかりました。

それでですね、今の市長のお話は十分理解できたので、それで自分は会社の経営者で PDCA についてなんですけど、多分世の中のまともな経営者は、PDCA を回すっていうのがとっても大事なことは理解しているんですけど、それを実際に回すっていうのがすごい大変だっていうことも理解してると思うんですね。

なので PDCA に関する参考書があんだけいっつも新しいのが出て売れているってことはそれだけ世の中の人が苦労しているということだと思います。自分もそうだなと思っています。

ただその PDCA は当然会社の運営じゃなくて組織の運営の技術だと思うので、やっぱり市役所も当然そうだと思うし議会とかも当然当てはまるだろうと思っていて、PDCA を回そうとしている市役所はすごいなと思うし実際うまく回るようになったら、これだけ効果的なことはないだろうなと思っております。

それでですね、今度 7 ページの PDCA のページで今この計画って今計画の途中だとは言いながらも、PDCA の P から始まっているようなイメージなんですよ、この方針シートを見ると。

多分やっぱり C から始めないと駄目だと思うんですよね。方針シートを見る限りはその C のところが正直あんまり書かれてないんですよ。

実績は出ているんだけど、そのチェックをしてないと思うんですね。

過去の目標値がこれで、実際やった結果がこうだと。

それに対して次の手はどう打つかっていうところがちょっと薄いんじゃないかなと思って見えています。

あと、この 7 ページの PDCA の円の方のイラストを見たときにチェックのところに総合政策審議会って外部評価って我々のところがあるんですが、これって議会って入らないものなんですか。

というか、正直本音はここの行政のやる施策がちゃんとうまくいっているかといってないかをチェックするのが自分は議会の仕事だと思っているんですよ。

議会がちゃんとチェックすれば我々こうやって集まる必要も全くないと思うし。

だからそこがちょっとな、わかんないんですよ。

自分は行政のことわかんないのでただ経営的な会社の感覚から行くとここに何で議会ないのって思っていました。

それとですね、あとちょっと戻って、3ページの、やっぱり市長が幸福度全国 No.1 と言ってもうこれがやっぱり一番の肝、一番のゴールだと思うんですよ。

幸福度 No.1 というのは No.1 という数字は入っているものの、すごいなんていうのかな、ぼんやりとしたというか、そういうものでそれはそれでいいと思うんですけど、次に幸福度の定義があって、その下に7つのあるべき姿っていうのがあると思うんですけど、これの下に具体的な数字、数字目標とか数値目標があれば、多分とってもやりやすいと思うんですね。

だからいずれ上の段、幸福度 No.1 からちょっとずつ下にいく早い段階で数値目標とかがあった方が、PDCA の計画は絶対圧倒的に作りやすいと思います。

それであと、調査結果が出てきてこれはこの通りだと思います。

ただ、いわゆる 13 ページの市民意識調査とか、あの幸福度とかっていうのを、さっき小松さんもおっしゃっていましたが、私の感覚とちょっとずれているなんていうのがあったと思うんですけど、自分も小松さんの言いたいことはそうかななんて思うんですが、こういう調査結果、住民全部のアンケートというのは人は基本的に変化拒むので、正直あんまりこれに振り回されない方が、いいと思っております。

ただ、例えば地方財政状況とか、将来の人口とか、そういう具体的な数字で出ているのはほぼほぼあっていると思うので、こういうのはちゃんと見ないと駄目だと思うんですけども、ちょっとぼんやりとした感覚的なところで答えなければ駄目な部分はその回答に逆に振り回されちゃって、冷静な正しい判断とか計画作れなくなったらちょっとうまくないのかなと思っております。

次に、各部局の方針シートの前に、市全体のやっぱりその数値目標とか、例えばですよ、市民の平均年収だったりとか、収入に関することとか、あとは例えば 21 ページ。

地方財政とかの人口当たりの職員数というのは仙北市圧倒的に多いとか。

でも人口 1 人 1 人当たりの人件費はやっぱり高いとか、これを 10 年の計画作るなら 10 年後どこまでに持っていくとか、そういう数字を作って行って、目標値を達成するために各部局でこういう方針でこういう計画を作りましょうっていう方に持っていかないと多分駄目なんじゃないかなと思っております。

なのでちょっとこれを見ると、その幸福度 No.1 っていうのはあるんだけど、そこから逆算して 10 年後の我々がこうありたいというところを逆算していくじゃなくて、幸福度はあるんだけど今から何するかっていう積み上げっぽく作られているような気がするので、すごい整合性が取れてないのではないかと。

あんまり自分ばかり喋っていても、なんですけど。

なので自分はこの部局の方針シートの前に、市全体の仙北市全体の数値目標をいろいろ作って、それに達成するためには各部局っていうのを考えた方がいいと思います。

あとですね、あとこの方針シートがこの仕組みが多分、最終的には肝になってきてですね。

例えばちょっと総務部が一番先に来たのでその部分のところをじっくり読んだんですけど、例えば 37 ページのもしこれ自分のうちの会社だとして、社員からこういうプレゼンが上がってきたら、社員に対して俺はこういうのを突っ込むなっていうことなんですけど、例えば 37 ページの KGI 達成水準がありますけど、そこの一番下に 2024 年 14.6% から満足度を上げる。でもこれ、要はゴールの水準で何%上げるかっていうか、数字を書かなきゃ駄目なんじゃないのかって思ったりとか、あとは過去 19 年度末専門職員採用 0 人って書いてあるんですけど、これもその当時の目標値は何人採用したかったのか、さっきも言ったんですけどね。

たとえば 5 人採用したかったんだけど実績ゼロでしたというのと、0 人でいいですよという計画だったのでは、全然違うじゃないですか。

やっぱりそこを比べるような数字の仕方を分析をしていくとそれがさっき言った PDCA の C だと思んですけど、そういうことをやるとか、あとですね、例えばその下の職員研修者数の 84 人 53 人 80 人でこれ人材育成教育研修云々って書いてあるんですけど、研修したら、育成になるのかって話なんですよね。

これ要はプロセスを勉強させるっていうことが目的になっちゃっているんで、そうじゃなくて勉強して今まではこういうスキルの人をこういうスキルまで持っていかなきゃ駄目だっていうことだと思うので、そしたら例えばその資格をちゃんと取るとかあれば、資格を取らせるとか、市役所の中でテストするとか、ちゃんとそういうふう to 育成したっていう、わかるような目標値とかの数字の管理をしないと駄目なんじゃないかなと思っております。

というようなことを見ればいっぱい出てきたので。

なので、まずこの方針シートよりも先の前段の方の C 全体でどうするのかっていうのがないと、多分作る各部局の方も大変なんじゃないかなと思いました。

以上です。

○臼木会長

ありがとうございました。

割と大きいところからのご意見というかご指摘だったと思います。

1個1個こうしますっていうのもちょっと言いにくいところあるかもしれませんが、この資料の総合計画の改訂版の作り方のスタンスとか目標の設定の仕方とか、そういった部分の御指摘みたいなのもあったのかなと思うんですが、あの今お答えいただける部分があれば、コメントを事務の事務局の皆さんからお願いします。

○細川政策支援アドバイザー

ごもっともでございます。

ただですね、我々も危惧しておりまして、ページで申しますと8ページを見ていただきたいんですが、言われるようにですね、いわゆる官僚的組織におけるPDCAは非常に硬直化して管理がしづらいと、結局PDCAはパーとやって結局何もしないってのが基本なんですけども、それを打破するためにOODAという概念を入れております。

つまりですね、今回なぜ3年にしたかと申しますと3年、管理しやすいんですね。

出来が悪かったから悪くて止めて、もう1回確認して出来の悪さを確認しようじゃないかっていう概念で3年目にしております。

指標については行政いろいろ多種多様な種類がありますのでなかなか統一感がないんですが、委員が言われるように確かに伸びが示しているあるいは伸びが示されてないのもあるのも事実です。

でもそれでもだいぶ前よりは改善したかと思っております。

つまり大事になるのは我々は幸福度を上げるための指標って実は作っておりまして、7つの目標は、チャレンジとかあったと思いますが、それは意識調査における幸福度の下位概念として位置づけております。

14ページにですね幸福度のカテゴリー別とございまして、実はこれが実質的な我々のターゲットになっております。

これ見るとわかるのですが、1から7までございます。

幸福度が低ければ低いほど実はやりたいことがない。チャレンジしていない。

その紐づけに関しては、すいません確かに若干弱いのは承知しております。部局経営方針シートの基本構想の8つの大綱とあるべき姿で、①②③という表記でここを紐づけております。

今回計画が変わりましたので、来年度以降は幸福度のこの7つの指標とそこに伴う政策の関係性が上がった下がったということが分析できる予定でございます。

つまり、施策ごとで目標数値、この過去現在見えたのも実はそのせいでございます。

なぜ伸びたのかってのは、過去のトレンドから見て増えた、とかじゃなくて、何かしら違う理由で増えたのかってことを明確にして、そこでもし、3年間で成果が上がらなかったという場合、政策そのものを変えるという仕組みになっておりますので、それは委員言われることは最もしてそれを配慮した作りになっております。

ただ、やはりこの幸福度のカテゴリーと分類のあるべき姿をちょっと一覧表で見せた内容はちょっとわかりづらかったかなと思っております。

タイミングを見て修正したいと思います。

○田口市長

ご指摘の通り、私自身幸福度全国 No.1 を目指すということが今回の総合計画策定にあたり一番の目的になりますので、今委員からの御指摘の通り当然絵に描いた餅の計画では困るわけなので、具体的に次幸福度を向上させるための政策というものがやはりその政策を実施して、どういう結果が出たのかって検証をしっかりして、ブラッシュアップしていかないといけないということもご指摘の通りですので、今日のご意見をぜひまたこれに反映させていただきたいと思います。

以上です。

○佐藤委員

さっき細川アドバイザーから PDCA と何だっけ、OODA って初めて聞いて、これで勉強になったんですね面白い考え方だなと思って。

自分も取り入れたいなと思ったんですけど、76 ページの一番上の既設トイレの洋式化っていうのがあって、これは完全に無駄なんじゃないかなと思ったんですよ。

イメージとして PDCA ってよりもね、これの一番これちょっと黄色で見づらいんだけど課題を取り巻く背景、緑豊かな美しい景観の魅力溢れたオープンスペースの確保が必要とされてますってことに対してトイレ洋式化したらこれ達成できますかって話なんですよね。

既設トイレの洋式化は多分 OODA 的な感覚でやらなきゃ駄目なんだろうなっていうアイデアが出てきて、それ必要であればやった方がいいんだと思うんですけど、こういう仕組

みを作る、PDCA を回していこうというときのこの表には押し込み方としては違いますよねってことなんですよ。

既設トイレの洋式化を、今和式のトイレを直したから、美しい景観の魅力溢れたオープンスペースの確保になるのかっていうところとかが整合性がないと思うんですよ。

なので多分、耳障りのいい言葉を使いたがりになるんですよ。こういうのって。うちの社員もそうなんです。何となくイメージの。

でもこういう実際もうやるってなったときはそういう言葉はもっと上の段階にあって、それこそ幸福度 No.1 だと思うんですよ。

でも実際やるときは、もう具体的な本当に実行して成果を上げるってところの言葉と数字だけでやっていった方が、使う人たちはやりやすいんじゃないかなと思ったりしました。

あと幸福度の 14 ページの今説明あったんですけど、これって物心両面のっていう話からいくと、これは心じゃないですか。

やっぱり物の数字っていうか、目標値は自分は設けた方がいいんじゃないかなとは思いますが。

となってくるとなんだろうなっていうのがさっきの財政指標とかだったり、あとは市民全体の平均所得を 10 年後にはここまで持っていくとか秋田県で一番にするとか、そういう具体的な目標は掲げた方が、毎年チェックした方がいいんじゃないかなと自分は思います。

以上です。

○臼木会長

なかなか即答は難しいと思うんですがどうでしょうか。

○細川政策支援アドバイザー

委員言われる中にいわゆる主観的な幸福ではなくて、客観的な社会環境における幸福度の基盤整備をどう考えるのかというご議論であることは承知しております。その通りでございます。

しかし問題はですね、例えば雇用者 1 人当たりの年収を上げる。

実は役所だけではできないんですね。

となりますと実は町全体での議論ってなりますので、実はこの計画だけでは足りないんですね。

申し訳ないですけども実は商工会含め、いろんな会社さんとのご議論を進めるということが今後必要にあると思いますが、その意味でのこれは第一歩と思っていただきたいと思います。

もう当然でございます。基本的に１人当たりの所得額は仙北市は低いです。

大仙市と比べて圧倒的に低いです。人がいないのは当たり前です。給与が安いからです。という現実がありますので、そこは今後、原課含め首脳陣含め議論を含めていけたらなと思っております。

以上でございます。

○臼木会長

一通り皆さんからご意見承りました。

なかなかクリアにこうしてほしい、というようなところをすぐに直せたり示したりっていうようにはできないようなところもあると思うんですけども、今の皆さん方からのご意見やご質問やご指摘を踏まえて、マイナーチェンジしたり、リーバイスするまた新たに公表されるようなときにですね、工夫できる部分を一つでも取り組んでいただければと思いますが、改めて一通り皆さんに個別に時間を取ってコメント頂戴しましたけど、皆さんのご意見を聞いた上でちょっと言いたいとか言わせてとか、ちょっと質問しておきたいとかありましたら、ぜひ挙げていただければと思いますが、何かありますでしょうか。

○佐藤委員

さっき PDCA の C というところで議会はって話したんですけど、自分としてはぜひ議会が議会事務局も方針シートを作ってもらえればいいんじゃないかなと。冗談ぽく言っているんですが本当に思っています。

というのが、いろいろ各部局、市が頑張っって伸びていこうっていう中で、もう議会はもう完璧だから俺たちは大丈夫だなんていうことは全くないと思うのであくまで意見ですけどね。

あともう一つ、細川アドバイザーが今行政だけではできないっていう話あってそれは本当そうだなと思っていて、自分もちょっと教育委員会の 77 ページ教育委員会読んで、いろいろ各施策はここに必要なんだろうなって思うんですけど、子供に関しては、子供の学力を平均点とかこの前の議会だよりか広報で出ていたのを見たんですけど、やっぱり仙北市の子供の学力は秋田県トップにするとかそういう目標値は出した方がいいんじゃないかななんて思ったりして、それはそのために自分は何が必要かななんて思ったときに、絶対学校

の先生だけでなく、親だったり周りの大人の教育も必要なんだろうなって。子供たちに対する教育が必要だということはその周りの大人も成長していかなきゃ駄目だになって、それはもう19歳で高卒で入った子から定年して、死ぬまで自分は勉強、成長だと思っているので。

でもそういうのを教育する機関ってないじゃないですか。

少なくともうちの会社に入った社員にはそういうことを教育する。

できるだけやれることをしたいなと思っているんですけど、そういうのも地域全体で企業の人と会ったり、いろんな機関と手を組んで大人の教育をやるとか、そういうことを盛り込むとか、どんどんそういうのはやっていった方がいいんだろうなと思っているので、さっきの所得を上げるというのももちろん行政の方にも全部頑張ってくださいと言うつもりはないし、本当は企業の経営者の方の責任だと思っているので。

ただうちの会社の社員の給料は自分が頑張れば上げられるかもしれないけど、市民全体の所得を上げることは不可能だと思っているので、一経営者としては。

ただ地域で頑張ればできると思うし、そういうのも何か盛り込んでくれればいいんじゃないかなと思っています。

以上です。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。

他いかがでしょうか。もし足りないという方がいらっしゃったらですね、終わった後ももちろんですけれども、メールなど何か事務局の方にお伝えいただくということでも、いいですね。

いいと思いますのでもし何かちょっと思い出したっていうことがあれば、メールなんかでも、お伝えいただいてもいいかなと思います。

私も何か気の利いたちょっと喋ろうと思ったんですが余計なことを言う前に段取り通りに進めて参りたいと思います。

この案件③につきましては、ひとまずこれで締めさせていただきますして、最後に案件の④その他報告事項ということで、事務局よりご説明をいただければと思います。

○事務局高橋

案件④につきましても細川アドバイザーの方から報告、その他報告事項がございますので細川アドバイザーよろしく願いいたします。

○細川政策支援アドバイザー

最後はこの A4 横でございます。

昨年度来ですかね、正式にいろんな改革というか、変化だと思えますけどもやってまいりまして来年度もやりたいと思っておりますんで、先ほど財政のこと非常にご懸念いただいてその通りでございます。

なんとかして財政を筋肉質にして、人口問題もこれは正直なかなか大変でございます。いわゆるソフトランディングをどうするかってことを念頭に 123 という意識を取って事務事業分析して政策評価をやると。

2025 年 26 年へ向けてどうやってやっていくかってことを考えていくと。またこの先に皆さん方にご意見等を伺うと思えます。

あとそれが終わって新規でやることが決まっております、業務時間外の勤務分析、今回皆さん二重にご迷惑かけておりますが、働き方のあり方をちょっと検討するときに来ているかなと思えます。

簡単に言えば、残業時間が長ければ正しいわけではございません。残業時間短ければ短いほど正解です。

あとですね 5 番、これも多分ですね皆さん非常に大きなご懸念になると思うんですが補助金助成金を精査していきたいと思えます。仙北市は他の町に比べて非常に多いです。

別に多いか少ないかが問題ではないんです。

成果が上がっていない助成金補助金は何だってことを精査していきたい。

必要だったらもっと上げる。必要じゃなかったら切る。

ていうのをシンプルに皆さん方と議論を詰めていきたいと思えます。これは激痛が走ります。ゆえに、試行なんでございます。

でも 3 年間くらいやらないと、皆さん絶対怒ると思えます。

絶対なんで切るのとか、もっと補助金をくれとか言う人もいると思うんで、そこの実験をちょっと 3 年間くらいかけてやりたいと思っております。

あとですねそれを踏まえまして、先ほど佐藤委員からもありましたけれども、やはり部局方針シートの判定、今年度作りしましたものを判定をして市全体の目標を決めて、予算を決めて、また 2025 年に 3 ヶ年プラス 1 ヶ年の部局経営方針シートを考えていく。

という意味でいくとチェックからスタートするもんですかね。出来悪いですねもう 1 回作り直しますかみたいなことを繰り返す。

ちなみにこういうタイプの行政経営のマネジメントはあまりないです。

基本的に 10 年、5 年、5 年というのが一般的です。

関西では8年、4年、4年ってパターンもありますけども、それは例外的です。

基本的に3年で組むのは全国でうちくらいじゃないですかね。

ほかには知らないですね。

なので一応皆さん最先端にいますので、一応ご安心くださいませ。

最後はですね、各種人材研修。

私も担当させてもらっておりますが新規採用職員から部課長の皆さん方に行政マネジメントのあり方を講義しております。これもなかなかいいことです。

1人のプレイヤーが全階層をやるっていう。

1個、去年ですけども、総務省のコンテストで東北1位になりました。東北で1位になったのは大きな成果でした。あんまりこれ注目されてませんけど、じわじわ効果出てますので、そこはまた皆さんに随時ご報告したいと思います。

というところでございます。またご協力のほどをお願い申し上げます。

○臼木会長

はい、ありがとうございます。今の件に関して何かご質問ありますでしょうか。

確認をしたいとか。

よろしいでしょうか。

ないようですので一通り用意しておりました次第に従いまして無事に案件をご審議いただいたということで、以降進行を事務局にお返ししたいと思います。

よろしくお願いします。

○齋藤企画部長

会長ありがとうございます。これで本日の総合政策審議会の議題は全て終了いたしました。閉会にあたりまして赤上副市長よりご挨拶を申し上げます。

○赤上副市長

皆さん審議していただきまして、誠にありがとうございました。我々、日頃一生懸命やっているんですが、なかなか気が付かないところがございます、皆様方のご意見、率直に検討させていただきまして次の計画に反映させて参りたいと思っておりますので、どうか引き続きよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

○齋藤企画部長

長時間のご審議ありがとうございました。委員の皆様におかれましては2年間の任期という事で大変長い間ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

それではこれをもちまして審議会を閉じます。

お疲れ様でした。ありがとうございます。